

ベンゾビスクロン (案)

今般の残留基準の検討については、農林水産省から消費者庁に、農薬取締法（昭和23年法律第82号）に基づく農薬の再評価に係る連絡がなされたことに伴い、食品安全委員会において内閣総理大臣からの依頼に伴う食品健康影響評価がなされたことを踏まえ、農薬・動物用医薬品部会において審議を行い、以下の報告を取りまとめるものである。

1. 概要

(1) 品目名：ベンゾビスクロン[Benzobicyclon(ISO)]

(2) 分類：農薬

(3) 用途：除草剤

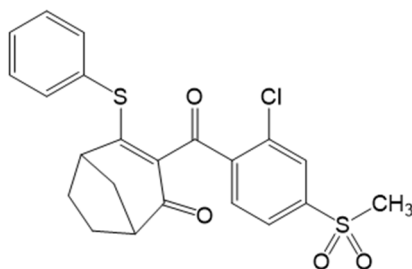
シクロヘキサンジオン系除草剤である。作用機構としては、プラストキノン生成経路の4-ヒドロキシフェニルピルビン酸ジオキシゲナーゼ（4-HPPD）を阻害することにより、間接的にカロチノイド合成の停止を伴うクロロフィル量の減少により白化、枯死させると考えられている。

(4) 化学名及びCAS番号

rac-(1*R*, 5*S*)-3-[2-Chloro-4-(methanesulfonyl)benzoyl]-4-(phenylsulfanyl)bicyclo[3.2.1]oct-3-en-2-one (IUPAC)

Bicyclo[3.2.1]oct-3-en-2-one, 3-[2-chloro-4-(methylsulfonyl)benzoyl]-4-(phenylthio)-
(CAS : No. 156963-66-5)

(5) 構造式及び物性



分子式	C ₂₂ H ₁₉ ClO ₄ S ₂
分子量	446.97
水溶解度	5.18 × 10 ⁻⁵ g/L (20℃、pH6)
分配係数	log ₁₀ Pow = 3.1 (20℃)

2. 適用の範囲及び使用方法

本剤の国内における適用の範囲及び使用法は、別紙1のとおり。

3. 代謝試験

(1) 植物代謝試験

植物代謝試験が、水稻で実施されており、可食部で親化合物の残留が認められず、10%TRR^{注)}以上認められた代謝物はなかった。

注) %TRR : 総放射性残留物 (TRR : Total Radioactive Residues) 濃度に対する比率 (%)

(2) 家畜代謝試験

家畜代謝試験が、泌乳山羊で実施されており、肝臓及び腎臓で、親化合物の残留が認められている。可食部で10%TRR以上認められた代謝物は、代謝物B (泌乳山羊の肝臓及び腎臓) であった。

4. 作物残留試験

(1) 分析の概要

①分析対象物質

・ベンゾビシクロン

②分析法の概要

i) ベンゾビシクロン

リン酸溶液を加えて膨潤させた試料からアセトニトリルで抽出する。4級アミン修飾ジビニルベンゼン-*N*-ビニルピロリドン共重合体カラムを用いて精製した後、液体クロマトグラフ・タンデム型質量分析計 (LC-MS/MS) で定量する。

またはリン酸溶液を加えて膨潤させた試料からアセトニトリルで抽出する。スチレンジビニルベンゼン共重合体カラム、多孔性ケイソウ土カラム、シリカゲルカラム及びトリメチルアミノプロピルシリル化シリカゲルカラム (SAX) を用いて精製し、紫外分光光度型検出器付き高速液体クロマトグラフ (HPLC-UV) で定量する。

定量限界 : 0.01 mg/kg

(2) 作物残留試験結果

国内作物残留試験については、水稻の試験成績を追加した。試験成績の概要を別紙2に示す。

5. 許容一日摂取量 (ADI) 及び急性参照用量 (ARfD) の評価

食品安全基本法 (平成15年法律第48号) 第24条第1項第1号の規定に基づき、食品安全委員会あて意見を求めたベンゾビシクロンに係る食品健康影響評価において、以下のとおり評価されている。

(1) ADI

ADI : 0.034 mg/kg体重/日

(ADI設定根拠資料) 慢性毒性/発がん性併合試験

(動物種) ラット

(期間)	2年間
(投与方法)	混餌
(無毒性量)	3.43 mg/kg体重/日
(安全係数)	100

なお、食品安全委員会は、発がん性は認められなかったと評価している。

(2) ARfD 設定の必要なし

ベンゾビシクロンの単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響は認められなかったことから、急性参照用量 (ARfD) は設定する必要がないと判断した。

6. 諸外国における状況

JMPRにおける毒性評価はなされておらず、国際基準も設定されていない。

米国、カナダ、EU、豪州及びニュージーランドについて調査した結果、米国において米に基準値が設定されている。

7. 残留規制

(1) 残留の規制対象

ベンゾビシクロンとする。

作物残留試験において、ベンゾビシクロンの分析が行われており、親化合物は定量限界未満であった。家畜代謝試験において親化合物及び代謝物Bが10%TRR以上検出されている。食品安全委員会の評価によると、家畜代謝試験の結果、10%TRRを超える代謝物として代謝物Bが認められ、ベンゾビシクロンに比べて毒性が強いと考えられたが、家畜代謝試験における投与量に対する予想飼料最大負荷量の比率を考慮して推定される畜産物中の残留値は、ベンゾビシクロン及び代謝物Bのいずれについても0.01 mg/kg未満であった。植物代謝試験で10%TRR以上認められた代謝物はなかった。以上のことから、規制対象をベンゾビシクロンとする。

(2) 基準値案

別紙3のとおりである。

8. 暴露評価

(1) 暴露評価対象

ベンゾビシクロンとする。

植物代謝試験及び作物残留試験において、ベンゾビシクロンの分析が行われており、親化合物は定量限界未満であったが、家畜代謝試験において親化合物及び代謝物Bが10%TRR以上検出されている。食品安全委員会の評価によると家畜代謝試験の結果、10%TRRを超える代謝物として代謝物Bが認められ、ベンゾビシクロンに比べて毒性が強いと考えられたが、家畜代謝試験における投与量に対する予想飼料最大負荷量の比率を考慮して推定される畜産物中の残留値は、ベンゾビシクロン及び代謝物Bのいずれについても0.01 mg/kg未満であった。植物代謝試験で10%TRR以上認められた代謝物はな

かった。以上のことから、暴露評価対象物質をベンゾビシクロンとする。

なお、食品安全委員会は、食品健康影響評価において、農産物中の暴露評価対象物質をベンゾビシクロン（親化合物のみ）としている。

（２）暴露評価結果

① 長期暴露評価

1日当たり摂取する農薬の量のADIに対する比は、以下のとおりである。詳細な暴露評価は別紙4参照。

	EDI／ADI (%) ^{注)}
国民全体（1歳以上）	0.1
幼小児（1～6歳）	0.2
妊婦	0.1
高齢者（65歳以上）	0.1

注）各食品の平均摂取量は、平成17～19年度の食品摂取頻度・摂取量調査の特別集計業務報告書による。

EDI試算法：作物残留試験成績の中央値（STMR）等×各食品の平均摂取量

ベンゾビシクロンの適用の範囲及び使用方法（国内）

2026年9月17日時点版

作物名	剤型	希釈倍数 又は 使用量	使用量	使用時期	散布液量	使用回数	ベンゾビシクロン を含む農薬の 総使用回数
移植水稻	5.7% SC	原液湛水散布	500 mL/10 a	植代後～移植前7日又は移植直後～ノビエ1葉期 ただし、移植後30日まで	—	1回	3回以内
	3.0% GR	湛水散布	1 kg/10 a	植代後～移植前7日又は移植直後～ノビエ1葉期 ただし、移植後30日まで	—	1回	
	25.0% WP 配合剤1	湛水散布又は無人航空機による滴下	80 g/10 a	移植直後～ノビエ2.5葉期 ただし、移植後30日まで	500 mL/10 a	1回	
		田植同時散布機で施用		移植時			
		顆粒水口施用		移植直後～ノビエ2.5葉期 ただし、移植後30日まで	—		
	12.0% DT 配合剤2	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	250 g/10 a	移植直後～ノビエ2.5葉期 ただし、移植後30日まで	—	1回	
	12.0% GR 配合剤2	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	小包装(パック)10個(250 g)/10 a				
	12.0% DT 配合剤3	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	250 g/10 a	移植後3日～ノビエ3葉期 ただし、移植後30日まで	—	1回	
	12.0% GR 配合剤3	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	小包装(パック)10個(250 g)/10 a				
	10.0% GR 配合剤4	湛水散布、湛水周縁散布、水口施用又は無人航空機による散布	200 g/10 a	移植直後～ノビエ2葉期 ただし、移植後30日まで	—	1回	
		水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	小包装(パック)10個(200 g)/10 a				
	10.0% GR 配合剤5	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	300 g/10 a	移植後1日～ノビエ3葉期 ただし、移植後30日まで	—	1回	
		水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	小包装(パック)10個(300 g)/10 a				
	10.0% GR 配合剤6	水口施用、湛水散布又は無人航空機による散布	200 g/10 a	移植後3日～ノビエ2葉期 ただし、移植後30日まで	—	1回	
		水口施用又は水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	小包装(パック)10個(200 g)/10 a				

ベンゾビシクロンの適用の範囲及び使用方法 (国内)

2026年9月17日時点版

作物名	剤型	希釈倍数 又は 使用量	使用量	使用時期	散布液量	使用回数	ベンゾビシクロン を含む農薬の 総使用回数
移植水稻	10.0% GR 配合剤7	湛水散布、湛水周縁散布 又は無人航空機による散 布	150 g/10 a	移植直後～ノビエ3.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	－	1回	3回以内
		水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(150 g)/10 a				
	10.0% GR 配合剤8	湛水散布、湛水周縁散 布、水口施用又は無人航 空機による散布	200 g/10 a	移植後3日～ノビエ3葉 期 ただし、移植後30 日まで	－	1回	
		水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(200 g)/10 a				
	10.0% GR 配合剤9	湛水散布、湛水周縁散布 又は無人航空機による散 布	200 g/10 a	移植後10日～ノビエ4 葉期 ただし、収穫60 日前まで	－	2回以内	
		水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(200 g)/10 a				
	10.0% GR 配合剤10	湛水散布又は無人航空機 による散布	200 g/10 a	移植直後～ノビエ3.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	－	1回	
		水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(200 g)/10 a				
	10.0% GR 配合剤11	水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(200 g)/10 a	移植直後～ノビエ2.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	－	1回	
	10.0% GR 配合剤12	水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(200 g)/10 a	移植後5日～ノビエ3葉 期 ただし、収穫60日 前まで	－	1回	
	8.0% DT 配合剤13	湛水散布、湛水周縁散布 又は無人航空機による散 布	250 g/10 a	移植後5日～ノビエ2.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	－	1回	
	8.0% GR 配合剤13	水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(250 g)/10 a				
	8.0% GR 配合剤14	湛水散布、湛水周縁散 布、水口施用又は無人航 空機による散布	250 g/10 a	移植直後～ノビエ2.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	－	1回	
		田植同時散布機で施用		移植時			
	6.7% GR 配合剤15	水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(300 g)/10 a	移植直後～ノビエ2.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	－	1回	
	6.7% GR 配合剤16	水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個300 g/10 a	移植後5日～ノビエ2.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	－	1回	

ベンゾビシクロンの適用の範囲及び使用方法（国内）

2026年9月17日時点版

作物名	剤型	希釈倍数 又は 使用量	使用量	使用時期	散布液量	使用回数	ベンゾビシクロン を含む農薬の 総使用回数
移植水稻	6.7% GR 配合剤17	水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(300 g)/10 a	移植後1日～ノビエ2.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	—	1回	3回以内
	6.7% GR 配合剤18	水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(300 g)/10 a	移植後1日～ノビエ2.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	—	1回	
	6.7% GR 配合剤19	水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(300 g)/10 a	移植直後～ノビエ2葉 期 ただし、移植後30 日まで	—	1回	
	6.0% GR 配合剤20	水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(500 g)/10 a	移植後3日～ノビエ2.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	—	1回	
	6.0% GR 配合剤21	湛水散布、湛水周縁散 布、水口施用又は無人航 空機による散布	200 g/10 a	植代後～移植7日前又 は移植直後～ノビエ 1.5葉期まで ただし、 移植後30日まで	—	1回	
		田植同時散布機で施用		移植時			
		水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(200 g)/10 a	植代後～移植7日前又 は移植直後～ノビエ 1.5葉期まで ただし、 移植後30日まで			
	6.0% SC 配合剤22	原液湛水散布又は無人航 空機による滴下	500 mL/10 a	移植直後～ノビエ3葉 期 ただし、移植後30 日まで	—	1回	
		田植同時散布機で施用		移植時			
	5.7% GR 配合剤23	水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(350 g)/10 a	移植後3日～ノビエ2.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	—	1回	
	5.4% SC 配合剤24	原液湛水散布、水口施用 又は無人航空機による滴 下	500 mL/10 a	移植直後～ノビエ2.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	—	1回	
		田植同時散布機で施用		移植時			
	5.0% GR 配合剤25	湛水散布、湛水周縁散布 又は無人航空機による散 布	400 g/10 a	移植直後～ノビエ4葉 期 ただし、移植後30 日まで	—	1回	
		水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(400 g)/10 a				
	5.0% GR 配合剤26	水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(400 g)/10 a	移植後5日～ノビエ2.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	—	1回	

ベンゾビシクロンの適用の範囲及び使用方法 (国内)

2026年9月17日時点版

作物名	剤型	希釈倍数 又は 使用量	使用量	使用時期	散布液量	使用回数	ベンゾビシクロン を含む農薬の 総使用回数
移植水稻	5.0% GR 配合剤27	湛水散布、湛水周縁散布 又は無人航空機による散 布	400 g/10 a	移植後14日～ノビエ4 葉期 ただし、収穫60 日前まで	—	1回	3回以内
		水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(400 g)/10 a				
	5.0% GR 配合剤28	水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(400 g)/10 a	移植後3日～ノビエ2.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	—	1回	
	5.0% GR 配合剤29	水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(400 g)/10 a	移植後3日～ノビエ3葉 期 ただし、移植後30 日まで	—	1回	
	4.0% GR 配合剤30	水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(500 g)/10 a	移植後15日～ノビエ4 葉期 ただし、収穫60 日前まで	—	1回	
	4.0% GR 配合剤31	水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(500 g)/10 a	移植後1日～ノビエ2.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	—	1回	
	4.0% GR 配合剤32	水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(500 g)/10 a	移植直後～ノビエ1.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	—	1回	
	4.0% GR 配合剤33	湛水散布又は無人航空機 による散布	500 g/10 a	移植後7日～ノビエ4葉 期 ただし、収穫60日 前まで	—	1回	
		水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(500 g)/10 a	移植後5日～ノビエ4葉 期 ただし、収穫60日 前まで			
	4.0% SC 配合剤34	原液湛水散布又は無人航 空機による滴下	500 mL/10 a	移植直後～ノビエ2.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	—	1回	
		田植同時散布機で施用		移植時			
	4.0% SC 配合剤35	原液湛水散布、水口施用 又は無人航空機による滴 下	500 mL/10 a	移植直後～ノビエ2葉 期 ただし、移植後30 日まで	—	2回以内	
			300 mL/10 a	植代後～移植前7日又 は移植直後～ノビエ 1.5葉期 ただし、移植 後30日まで			
		田植同時散布機で施用	300～500 mL/10 a	移植時			
	4.0% SC 配合剤36	原液湛水散布又は無人航 空機による滴下	500 mL/10 a	移植後5日～ノビエ2.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	—	1回	
	4.0% SC 配合剤37	原液湛水散布又は水口施 用	500 mL/10 a	移植後3日～ノビエ2.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	—	1回	

ベンゾビシクロンの適用の範囲及び使用方法 (国内)

2026年9月17日時点版

作物名	剤型	希釈倍数 又は 使用量	使用量	使用時期	散布液量	使用回数	ベンゾビシクロン を含む農薬の 総使用回数
移植水稻	4.0% SC 配合剤38	原液湛水散布	500 mL/10 a	移植後5日～ノビエ2.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	—	1回	3回以内
	3.9% SC 配合剤39	原液湛水散布又は水口施 用	500 mL/10 a	移植後5日～ノビエ3葉 期 ただし、移植後30 日まで	—	1回	
	3.9% SC 配合剤40	原液湛水散布、水口施用 又は無人航空機による滴 下	500 mL/10 a	移植直後～ノビエ2.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	—	1回	
		田植同時散布機で施用		移植時			
	3.9% SC 配合剤41	原液湛水散布	500 mL/10 a	移植直後～ノビエ2葉 期 ただし、移植後30 日まで	—	1回	
		田植同時散布機で施用		移植時			
	3.9% SC 配合剤42	原液湛水散布	500 mL/10 a	移植直後～ノビエ1.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	—	1回	
		田植同時散布機で施用		移植時			
	3.8% SC 配合剤43	原液湛水散布、水口施用 又は無人航空機による滴 下	500 mL/10 a	移植直後～ノビエ3.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	—	1回	
		田植同時散布機で施用		移植時			
	3.8% SC 配合剤44	原液湛水散布、水口施用 又は無人航空機による滴 下	500 mL/10 a	移植直後～ノビエ4葉 期 ただし、移植後30 日まで	—	1回	
		田植同時散布機で施用		移植時			
	3.8% SC 配合剤45	原液湛水散布、水口施用 又は無人航空機による滴 下	500 mL/10 a	移植後5日～ノビエ2.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	—	1回	
	3.8% SC 配合剤46	原液湛水散布、水口施用 又は無人航空機による滴 下	500 mL/10 a	移植後3日～ノビエ3葉 期 ただし、移植後30 日まで	—	1回	
3.8% SC 配合剤47	原液湛水散布、水口施用 又は無人航空機による滴 下	500 mL/10 a	移植後3日～ノビエ3葉 期 ただし、移植後30 日まで	—	1回		
3.6% SC 配合剤48	原液湛水散布、水口施用 又は無人航空機による滴 下	500 mL/10 a	移植後3日～ノビエ2.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	—	1回		
3.5% SC 配合剤49	原液湛水散布、水口施用 又は無人航空機による滴 下	500 mL/10 a	移植直後～ノビエ2.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	—	1回		

ベンゾビシクロンの適用の範囲及び使用方法（国内）

2026年9月17日時点版

作物名	剤型	希釈倍数 又は 使用量	使用量	使用時期	散布液量	使用回数	ベンゾビシクロン を含む農薬の 総使用回数
移植水稻	3.0% GR 配合剤50	湛水散布又は無人航空機 による散布	1 kg/10 a	移植直後～ノビエ3葉 期 ただし、移植後30 日まで	—	1回	3回以内
		田植同時散布機で施用		移植時			
	3.0% GR 配合剤51	湛水散布	1 kg/10 a	移植後3日～ノビエ2.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	—	1回	
	3.0% GR 配合剤52	湛水散布又は無人航空機 による散布	1 kg/10 a	移植直後～ノビエ2.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	—	1回	
		田植同時散布機で施用		移植時			
	3.0% GR 配合剤53	湛水散布又は無人航空機 による散布	1 kg/10 a	移植直後～ノビエ2.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	—	1回	
		田植同時散布機で施用		移植時			
	3.0% GR 配合剤54	湛水散布	1 kg/10 a	移植直後～ノビエ2.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	—	1回	
		田植同時散布機で施用		移植時			
	3.0% GR 配合剤55	湛水散布又は無人航空機 による散布	1 kg/10 a	移植直後～ノビエ3葉 期 ただし、移植後30 日まで	—	1回	
		田植同時散布機で施用		移植時			
	3.0% GR 配合剤56	湛水散布又は無人航空機 による散布	500 g/10 a	移植直後～ノビエ3.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	—	1回	
	2.9% SC 配合剤57	原液湛水散布又は無人航 空機による滴下	500 mL/10 a	移植直後～ノビエ3.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	—	1回	
	2.0% GR 配合剤58	湛水散布又は無人航空機 による散布	1 kg/10 a	移植後7日～ノビエ4葉 期 ただし、収穫60日 前まで	—	1回	
	2.0% GR 配合剤59	湛水散布又は無人航空機 による散布	1 kg/10 a	移植直後～ノビエ2.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	—	1回	
		田植同時散布機で施用		移植時			
	2.0% GR 配合剤60	湛水散布	1 kg/10 a	移植直後～ノビエ2.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	—	1回	
		田植同時散布機で施用		移植時			

ベンゾビシクロンの適用の範囲及び使用方法 (国内)

2026年9月17日時点版

作物名	剤型	希釈倍数 又は 使用量	使用量	使用時期	散布液量	使用回数	ベンゾビシクロン を含む農薬の 総使用回数
移植水稻	2.0% GR 配合剤61	湛水散布又は無人航空機 による散布	1 kg/10 a	移植後7日～ノビエ4葉 期 ただし、収穫60日 前まで	—	2回以内	3回以内
	2.0% GR 配合剤62	湛水散布	1 kg/10 a	移植直後～ノビエ1.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	—	1回	
		田植同時散布機で施用		移植時			
	2.0% GR 配合剤63	湛水散布又は無人航空機 による散布	1 kg/10 a	移植直後～ノビエ4葉 期 ただし、移植後30 日まで	—	1回	
		田植同時散布機で施用		移植時			
	2.0% GR 配合剤64	湛水散布又は無人航空機 による散布	1 kg/10 a	移植直後～ノビエ3葉 期 ただし、移植後30 日まで	—	1回	
		田植同時散布機で施用		移植時			
	2.0% GR 配合剤65	湛水散布又は無人航空機 による散布	1 kg/10 a	移植後15日～ノビエ4 葉期 ただし、収穫60 日前まで	—	1回	
	2.0% GR 配合剤66	湛水散布又は無人航空機 による散布	1 kg/10 a	移植直後～ノビエ2.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	—	1回	
		田植同時散布機で施用		移植時			
	2.0% GR 配合剤67	湛水散布	1 kg/10 a	移植後3日～ノビエ2.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	—	1回	
	2.0% GR 配合剤68	湛水散布又は無人航空機 による散布	1 kg/10 a	移植直後～ノビエ2.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	—	1回	
		田植同時散布機で施用		移植時			
	2.0% GR 配合剤69	湛水散布	1 kg/10 a	移植後5日～ノビエ2.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	—	1回	
	2.0% GR 配合剤70	湛水散布又は無人航空機 による散布	1 kg/10 a	移植直後～ノビエ3葉 期 ただし、収穫60日 前まで	—	2回以内	
田植同時散布機で施用		移植時					
2.0% GR 配合剤71	湛水散布又は無人航空機 による散布	1 kg/10 a	移植後15日～ノビエ 3.5葉期 ただし、収穫 60日前まで	—	1回		

ベンゾビシクロンの適用の範囲及び使用方法（国内）

2026年9月17日時点版

作物名	剤型	希釈倍数 又は 使用量	使用量	使用時期	散布液量	使用回数	ベンゾビシクロン を含む農薬の 総使用回数
移植水稻	2.0% GR 配合剤72	湛水散布又は無人航空機 による散布	1 kg/10 a	移植後14日～ノビエ4 葉期 ただし、収穫60 日前まで	—	1回	3回以内
	2.0% GR 配合剤73	湛水散布又は無人航空機 による散布	1 kg/10 a	移植直後～ノビエ2.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	—	1回	
		田植同時散布機で施用		移植時			
	2.0% GR 配合剤74	湛水散布	1 kg/10 a	移植直後～ノビエ2葉 期 ただし、移植後30 日まで	—	1回	
		田植同時散布機で施用		移植時			
	2.0% GR 配合剤75	湛水散布又は無人航空機 による散布	1 kg/10 a	移植直後～ノビエ3葉 期 ただし、移植後30 日まで	—	1回	
		田植同時散布機で施用		移植時			
	2.0% GR 配合剤76	湛水散布又は無人航空機 による散布	1 kg/10 a	移植直後～ノビエ2.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	—	1回	
		田植同時散布機で施用		移植時			
	2.0% GR 配合剤77	湛水散布又は無人航空機 による散布	1 kg/10 a	移植直後～ノビエ2.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	—	1回	
		田植同時散布機で施用		移植時			
	2.0% GR 配合剤78	湛水散布又は無人航空機 による散布	1 kg/10 a	移植後3日～ノビエ3葉 期 ただし、移植後30 日まで	—	1回	
	2.0% GR 配合剤79	湛水散布	1 kg/10 a	移植後5日～ノビエ2.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	—	1回	
2.0% GR 配合剤80	湛水散布	1 kg/10 a	移植後5日～ノビエ2.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	—	1回		
2.0% GR 配合剤81	湛水散布	1 kg/10 a	移植直後～ノビエ2.5 葉期 ただし、移植後 30日まで	—	1回		
	田植同時散布機で施用		移植時				
直播水稻	25.0% WP 配合剤1	湛水散布	80 g/10 a	稲1葉期～ノビエ2.5葉 期 ただし、収穫90日 前まで	500 mL/10 a	1回	3回以内
		顆粒水口施用			—		

ベンゾビシクロンの適用の範囲及び使用方法（国内）

2026年9月17日時点版

作物名	剤型	希釈倍数 又は 使用量	使用量	使用時期	散布液量	使用回数	ベンゾビシクロン を含む農薬の 総使用回数
直播水稻	12. 0% DT 配合剤2	湛水散布又は無人航空機 による散布	250 g/10 a	稲1葉期～ノビエ2. 5葉 期 ただし、収穫90日 前まで	—	1回	3回以内
	12. 0% GR 配合剤2	水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(250 g)/10 a				
	12. 0% DT 配合剤3	湛水散布又は無人航空機 による散布	250 g/10 a	稲1葉期～ノビエ3葉期 ただし、収穫90日前ま で	—	1回	
	12. 0% GR 配合剤3	水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(250 g)/10 a				
	10. 0% GR 配合剤5	湛水散布、湛水周縁散布 又は無人航空機による散 布	300 g/10 a	稲1葉期～ノビエ3葉期 ただし、収穫90日前ま で	—	1回	
		水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(300 g)/10 a				
	10. 0% GR 配合剤6	湛水散布又は無人航空機 による散布	200 g/10 a	稲1葉期～ノビエ2葉期 ただし、収穫60日前ま で	—	1回	
		水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(200 g)/10 a				
	10. 0% GR 配合剤8	湛水散布、湛水周縁散布 又は無人航空機による散 布	200 g/10 a	稲1葉期～ノビエ3葉期 ただし、収穫90日前ま で	—	1回	
		水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(200 g)/10 a				
	10. 0% GR 配合剤11	水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(200 g)/10 a	稲1葉期～ノビエ2. 5葉 期 ただし、収穫90日 前まで	—	1回	
	10. 0% GR 配合剤12	水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(200 g)/10 a	稲1葉期～ノビエ3葉期 ただし、収穫60日前ま で	—	1回	
	8. 0% GR 配合剤14	湛水散布、湛水周縁散布 又は無人航空機による散 布	250 g/10 a	稲1葉期～ノビエ2. 5葉 期 ただし、収穫90日 前まで	—	1回	
	6. 7% GR 配合剤17	水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(300 g)/10 a	稲1葉期～ノビエ2. 5葉 期 ただし、収穫90日 前まで	—	1回	
	6. 7% GR 配合剤18	水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(300 g)/10 a	稲1葉期～ノビエ2. 5葉 期 ただし、収穫90日 前まで	—	1回	
6. 0% GR 配合剤20	水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(500 g)/10 a	稲1葉期～ノビエ2. 5葉 期 ただし、収穫90日 前まで	—	1回		
6. 0% SC 配合剤22	原液湛水散布又は無人航 空機による滴下	500 mL/10 a	稲1葉期～ノビエ3葉期 ただし、収穫90日前ま で	—	1回		

ベンゾビシクロンの適用の範囲及び使用方法 (国内)

2026年9月17日時点版

作物名	剤型	希釈倍数 又は 使用量	使用量	使用時期	散布液量	使用回数	ベンゾビシクロン を含む農薬の 総使用回数
直播水稻	5.7% GR 配合剤23	水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(350 g)/10 a	稲1葉期～ノビエ2.5葉 期 ただし、収穫90日 前まで	—	1回	3回以内
	5.4% SC 配合剤24	原液湛水散布、水口施用 又は無人航空機による滴 下	500 mL/10 a	稲1葉期～ノビエ2.5葉 期 ただし、収穫90日 前まで	—	1回	
	5.0% GR 配合剤25	湛水散布、湛水周縁散布 又は無人航空機による散 布	400 g/10 a	稲1葉期～ノビエ4葉期 ただし、収穫90日前ま で	—	1回	
		水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(400 g)/10 a				
	5.0% GR 配合剤26	水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(400 g)/10 a	稲1葉期～ノビエ2.5葉 期 ただし、収穫90日 前まで	—	1回	
	5.0% GR 配合剤27	湛水散布、湛水周縁散布 又は無人航空機による散 布	400 g/10 a	稲1葉期～ノビエ4葉期 ただし、収穫60日前ま で	—	1回	
		水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(400 g)/10 a				
	5.0% GR 配合剤28	水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(400 g)/10 a	稲1葉期～ノビエ2.5葉 期 ただし、収穫90日 前まで	—	1回	
	5.0% GR 配合剤29	水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(400 g)/10 a	稲1葉期～ノビエ3葉期 ただし、収穫60日前ま で	—	1回	
	4.0% GR 配合剤30	水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(500 g)/10 a	稲4葉期～ノビエ4葉期 ただし、収穫60日前ま で	—	1回	
	4.0% GR 配合剤31	水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(500 g)/10 a	稲1葉期～ノビエ2.5葉 期 ただし、収穫90日 前まで	—	1回	
	4.0% GR 配合剤33	湛水散布又は無人航空機 による散布	500 g/10 a	稲1葉期～ノビエ4葉期 ただし、収穫60日前ま で	—	1回	
		水田に小包装(パック)の まま投げ入れる。	小包装(パッ ク)10個(500 g)/10 a				
	4.0% SC 配合剤34	原液湛水散布、水口施用 又は無人航空機による滴 下	500 mL/10 a	稲1葉期～ノビエ2.5葉 期 ただし、収穫90日 前まで	—	1回	
	4.0% SC 配合剤37	原液湛水散布	500 mL/10 a	稲1葉期～ノビエ2.5葉 期 ただし、収穫90日 前まで	—	1回	
3.9% SC 配合剤39	原液湛水散布	500 mL/10 a	稲1.5葉期～ノビエ3葉 期 ただし、収穫75日 前まで	—	1回		

ベンゾビシクロンの適用の範囲及び使用方法（国内）

2026年9月17日時点版

作物名	剤型	希釈倍数 又は 使用量	使用量	使用時期	散布液量	使用回数	ベンゾビシクロン を含む農薬の 総使用回数
直播水稻	3.9% SC 配合剤40	原液湛水散布、水口施用 又は無人航空機による滴 下	500 mL/10 a	稲1葉期～ノビエ2.5葉 期 ただし、収穫90日 前まで	—	1回	3回以内
	3.9% SC 配合剤41	原液湛水散布	500 mL/10 a	稲1葉期～ノビエ2葉期 ただし、収穫75日前ま で	—	1回	
	3.8% SC 配合剤43	原液湛水散布又は無人航 空機による滴下	500 mL/10 a	稲1.5葉期～ノビエ3.5 葉期 ただし、収穫90 日前まで	—	1回	
	3.8% SC 配合剤44	原液湛水散布、水口施用 又は無人航空機による滴 下	500 mL/10 a	稲1葉期～ノビエ4葉期 ただし、収穫90日前ま で	—	1回	
	3.8% SC 配合剤45	原液湛水散布	500 mL/10 a	稲1葉期～ノビエ2.5葉 期 ただし、収穫90日 前まで	—	1回	
	3.8% SC 配合剤46	原液湛水散布、水口施用 又は無人航空機による滴 下	500 mL/10 a	稲1葉期～ノビエ3葉期 ただし、収穫90日前ま で	—	1回	
	3.8% SC 配合剤47	原液湛水散布又は無人航 空機による滴下	500 mL/10 a	湛水直播の稲1葉期～ ノビエ3葉期 ただし、 収穫90日前まで	—	1回	
	3.6% SC 配合剤48	原液湛水散布、水口施用 又は無人航空機による滴 下	500 mL/10 a	稲1葉期～ノビエ2.5葉 期 ただし、収穫90日 前まで	—	1回	
	3.0% GR 配合剤50	湛水散布又は無人航空機 による散布	1 kg/10 a	稲1葉期～ノビエ3葉期 ただし、収穫90日前ま で	—	1回	
	3.0% GR 配合剤51	湛水散布	1 kg/10 a	稲1葉期～ノビエ2.5葉 期 ただし、収穫90日 前まで	—	1回	
	3.0% GR 配合剤53	湛水散布又は無人航空機 による散布	1 kg/10 a	稲1葉期～ノビエ2.5葉 期 ただし、収穫90日 前まで	—	1回	
	3.0% GR 配合剤55	湛水散布又は無人航空機 による散布	1 kg/10 a	稲1葉期～ノビエ3葉期 ただし、収穫90日前ま で	—	1回	
	2.0% GR 配合剤58	湛水散布又は無人航空機 による散布	1 kg/10 a	稲4葉期～ノビエ4葉期 ただし、収穫60日前ま で	—	1回	
	2.0% GR 配合剤59	湛水散布又は無人航空機 による散布	1 kg/10 a	稲1葉期～ノビエ2.5葉 期 ただし、収穫90日 前まで	—	1回	
	2.0% GR 配合剤60	湛水散布	1 kg/10 a	稲1葉期～ノビエ2.5葉 期 ただし、収穫90日 前まで	—	1回	

ベンゾビシクロンの適用の範囲及び使用方法（国内）

2026年9月17日時点版

作物名	剤型	希釈倍数 又は 使用量	使用量	使用時期	散布液量	使用回数	ベンゾビシクロン を含む農薬の 総使用回数
直播水稻	2.0% GR 配合剤61	湛水散布又は無人航空機 による散布	1 kg/10 a	稲3葉期～ノビエ4葉期 ただし、収穫60日前ま で	—	2回以内	3回以内
	2.0% GR 配合剤62	湛水散布	1 kg/10 a	稲1葉期～ノビエ1.5葉 期 ただし、収穫90日 前まで	—	1回	
	2.0% GR 配合剤63	湛水散布又は無人航空機 による散布	1 kg/10 a	稲1葉期～ノビエ4葉期 ただし、収穫90日前ま で	—	1回	
	2.0% GR 配合剤64	湛水散布又は無人航空機 による散布	1 kg/10 a	稲1.5葉期～ノビエ3葉 期 ただし、収穫90日 前まで	—	1回	
	2.0% GR 配合剤65	湛水散布又は無人航空機 による散布	1 kg/10 a	稲4葉期～ノビエ4葉期 ただし、収穫60日前ま で	—	1回	
	2.0% GR 配合剤68	湛水散布又は無人航空機 による散布	1 kg/10 a	稲1葉期～ノビエ2.5葉 期 ただし、収穫90日 前まで	—	1回	
	2.0% GR 配合剤69	湛水散布	1 kg/10 a	稲1葉期～ノビエ2.5葉 期 ただし、収穫90日 前まで	—	1回	
	2.0% GR 配合剤70	湛水散布又は無人航空機 による散布	1 kg/10 a	稲1葉期～ノビエ3葉期 ただし、収穫60日前ま で	—	2回以内	
	2.0% GR 配合剤71	湛水散布又は無人航空機 による散布	1 kg/10 a	稲3葉期～ノビエ3.5葉 期まで ただし、収穫 60日前まで	—	1回	
	2.0% GR 配合剤72	湛水散布又は無人航空機 による散布	1 kg/10 a	稲2葉期～ノビエ4葉期 ただし、収穫60日前ま で	—	1回	
	2.0% GR 配合剤73	湛水散布又は無人航空機 による散布	1 kg/10 a	稲1葉期～ノビエ2.5葉 期 ただし、収穫90日 前まで	—	1回	
	2.0% GR 配合剤74	湛水散布	1 kg/10 a	稲1葉期～ノビエ2葉期 ただし、収穫75日前ま で	—	1回	
	2.0% GR 配合剤75	湛水散布又は無人航空機 による散布	1 kg/10 a	稲1葉期～ノビエ3葉期 ただし、収穫60日前ま で	—	1回	
	2.0% GR 配合剤76	湛水散布又は無人航空機 による散布	1 kg/10 a	稲1葉期～ノビエ2.5葉 期 ただし、収穫90日 前まで	—	1回	
	2.0% GR 配合剤77	湛水散布又は無人航空機 による散布	1 kg/10 a	稲1葉期～ノビエ2.5葉 期 ただし、収穫90日 前まで	—	1回	

ベンゾビシクロンの適用の範囲及び使用方法（国内）

2026年9月17日時点版

作物名	剤型	希釈倍数 又は 使用量	使用量	使用時期	散布液量	使用回数	ベンゾビシクロン を含む農薬の 総使用回数
直播水稻	2.0% GR 配合剤81	湛水散布	1 kg/10 a	稲1葉期～ノビエ2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	－	1回	3回以内
	2.0% GR 配合剤82	は種同時散布機で施用	1 kg/10 a	は種時	－	1回	
		湛水散布又は無人航空機 による散布		湛水直播のは種直後～ ノビエ2.5葉期 だ し、収穫60日前まで			
	2.0% GR 配合剤83	は種同時散布機で施用	1 kg/10 a	湛水直播のは種時	－	1回	
		湛水散布又は無人航空機 による散布		湛水直播のは種直後～ ノビエ1.5葉期 た だし、収穫90日前まで			

ベンゾビシクロンの適用の範囲及び使用方法 (国内)

2026年9月17日時点版

SC：フロアブル

GR：粒剤

WP：水和剤

DT：豆つぶ剤

配合剤1：2.6%ピラゾスルフロンエチル・25.0%フェントラザミド

配合剤2：1.6%オキサジクロメホン・2.2%ピリミルスルファン

配合剤3：2.0%ピリミルスルファン・8.0%フェノキサスルホン

配合剤4：10.0%デニルクロール

配合剤5：10.0%フェントラザミド・2.0%メタゾスルフロン

配合剤6：10.5%カフェンストロール・2.25%シクロスルファミロン・22.5%ダイムロン

配合剤7：13.3%シクロピリモレート・3.3%トリアファモン

配合剤8：15.0%カフェンストロール・2.5%フロルピラウキシフェンベンジル

配合剤9：2.0%フロルピラウキシフェンベンジル・2.5%ペノキススラム

配合剤10：2.5%トリアファモン・15.0%ペントキサゾン

配合剤11：4.5%イマゾスルフロン・10.0%ピラクロニル

配合剤12：4.5%プロピリスルフロン

配合剤13：12.0%カフェンストロール・3.0%ベンスルフロンメチル

配合剤14：10.0%イプフェンカルバゾン・3.6%イマゾスルフロン

配合剤15：1.4%オキサジクロメホン・6.6%ピラクロニル・1.0%ピラゾスルフロンエチル

配合剤16：10.0%カフェンストロール・16.7%ダイムロン・2.0%ハロスルフロンメチル

配合剤17：10.0%フェントラザミド・1.7%ベンスルフロンメチル

配合剤18：10.0%フェントラザミド・2.5%ベンスルフロンメチル

配合剤19：6.6%ピラクロニル

配合剤20：2.4%インダノファン・3.0%ピラクロニル

配合剤21：6.0%デニルクロール

配合剤22：6.0%フェントラザミド・1.2%メタゾスルフロン

配合剤23：7.1%カフェンストロール・14.3%ダイムロン・1.5%ベンスルフロンメチル

配合剤24：4.5%イプフェンカルバゾン・14.3%ベンゾフェナップ

配合剤25：1.25%トリアファモン・5.0%ピラクロニル

配合剤26：2.25%イマゾスルフロン・7.5%カフェンストロール

配合剤27：25.0%ダイムロン・5.0%ピラクロニル・3.0%メタゾスルフロン

配合剤28：25.0%ピラゾレート・1.5%メタゾスルフロン

配合剤29：5.0%ピラクロニル・2.25%プロピリスルフロン

配合剤30：1.0%ペノキススラム

配合剤31：4.0%ピラクロニル・20.0%ピラゾレート

配合剤32：4.0%ペントキサゾン

配合剤33：4.2%カフェンストロール・1.8%カルフェントラゾンエチル・0.44%フルセトスルフロン

配合剤34：3.6%ピラクロニル・20.0%ピラゾレート

配合剤35：4.0%デニルクロール

配合剤36：5.0%カフェンストロール・10.0%ダイムロン・1.2%ハロスルフロンメチル

配合剤37：5.5%カフェンストロール・10.0%ダイムロン・1.0%ベンスルフロンメチル

配合剤38：6.0%カフェンストロール・1.5%ベンスルフロンメチル

配合剤39：1.7%プロピリスルフロン

配合剤40：1.8%イマゾスルフロン・3.9%ピラクロニル

配合剤41：3.9%ピラクロニル

配合剤42：3.9%ペントキサゾン

配合剤43：0.94%トリアファモン・5.7%ペントキサゾン

配合剤44：0.96%トリアファモン・3.8%ピラクロニル

配合剤45：1.7%イマゾスルフロン・5.7%カフェンストロール

配合剤46：3.8%ピラクロニル・1.7%プロピリスルフロン

配合剤47：5.7%カフェンストロール・0.94%フロルピラウキシフェンベンジル

配合剤48：18.2%ピラゾレート・1.1%メタゾスルフロン

配合剤49：26.1%ピラゾレート・3.5%フェントラザミド

配合剤50：0.50%ピリミルスルファン・2.0%フェノキサスルホン

配合剤51：1.2%インダノファン・1.5%ピラクロニル

配合剤52：2.0%デニルクロール・2.0%ピラクロニル

配合剤53：2.5%イプフェンカルバゾン・8.0%ベンゾフェナップ

配合剤54：3.0%カフェンストロール・0.60%ジメタメトリン・9.0%ダイムロン

配合剤55：3.0%フェントラザミド・0.60%メタゾスルフロン

配合剤56：4.0%シクロピリモレート・1.0%トリアファモン

配合剤57：3.8%シクロピリモレート・0.95%トリアファモン

配合剤58：0.25%ペノキススラム・0.60%メタゾスルフロン

配合剤59：0.30%ピラゾスルフロンエチル・10.0%ブタクロール

配合剤60：0.40%オキサジクロメホン・2.0%ピラクロニル・0.30%ピラゾスルフロンエチル

配合剤61：0.40%フロルピラウキシフェンベンジル・0.50%ペノキススラム

配合剤62：0.50%シクロスルファミロン・3.9%ペントキサゾン

配合剤63：0.50%トリアファモン・2.0%ピラクロニル

配合剤64：0.50%トリアファモン・2.5%ペントキサゾン

配合剤65：0.50%ペノキススラム

配合剤66：0.60%オキサジクロメホン・2.0%テフルトリオン・0.30%ピラゾスルフロンエチル

ベンゾビシクロンの適用の範囲及び使用方法 (国内)

2026年9月17日時点版

配合剤67 : 0.80%オキサジクロメホン・0.60%ジメタメトリン・0.30%ピラゾスルフロニエチル
配合剤68 : 0.90%イマゾスルフロニ・2.0%ピラクロニル
配合剤69 : 0.90%イマゾスルフロニ・3.0%カフェンストロール
配合剤70 : 0.90%プロピリスルフロニ
配合剤71 : 1.8%シハロホップブチル・1.0%ジメタメトリン・0.90%ハロスルフロニメチル
配合剤72 : 10.0%ダイムロン・2.0%ピラクロニル・1.2%メタゾスルフロニ
配合剤73 : 10.0%ピラゾレート・0.60%メタゾスルフロニ
配合剤74 : 2.0%ピラクロニル
配合剤75 : 2.0%ピラクロニル・0.90%プロピリスルフロニ
配合剤76 : 2.0%ピラクロニル・10.0%ピラゾレート
配合剤77 : 2.5%イプフェンカルバゾン・0.90%イマゾスルフロニ
配合剤78 : 3.0%カフェンストロール・0.50%フロルピラウキシフェンベンジル
配合剤79 : 3.0%カフェンストロール・0.75%ベンスルフロニメチル
配合剤80 : 3.0%カフェンストロール・5.0%ダイムロン・0.60%ハロスルフロニメチル
配合剤81 : 3.0%カフェンストロール・6.0%ダイムロン・0.51%ベンスルフロニメチル
配合剤82 : 0.23%メタミホップ
配合剤83 : 1.2%ピリフタリド
ー : 規定されていない項目

ベンゾビシクロンの作物残留試験一覧表（国内）

農作物	試験 圃場数	試験条件				経過日数	残留濃度 (mg/kg) 注)	設定の 根拠等
		剤型	使用量・使用方法	回数	使用時期			
水稻 (玄米)	4	2.0% GR +3.0% GR +2.0% GR	1.5 kg/10 a 散布 +1 kg/10 a 散布 +1 kg/10 a 散布	3	移植3日後 +移植30日後 +収穫60日前	60	圃場A:<0.01 (#)	◎
					移植3日後 +移植30日後 +収穫60日前	60	圃場B:<0.01 (#)	
					移植3日後 +移植30日後 +収穫60日前	60	圃場C:<0.01 (#)	
					移植3日後 +移植30日後 +収穫59日前	59	圃場D:<0.01 (#)	
	2	2.0% GR +3.0% GR +2.0% GR	1.5 kg/10 a 散布 +1 kg/10 a 散布 +1 kg/10 a 散布	3	移植3日後 +移植30日後 +収穫45日前、収穫 60日前、収穫75日 前	60	圃場A:<0.01 (3回、60日) (#)	
					移植3日後 +移植31日後 +収穫45日前、収穫 60日前、収穫74日 前	60	圃場B:<0.01 (3回、60日) (#)	

GR：粒剤

(＃)印で示した作物残留試験成績は、登録又は申請された適用の範囲内で行われていないことを示す。

今回、新たに提出された作物残留試験成績を網掛けで示した。

基準値の設定根拠及び暴露評価にも使用されているものに◎で示した。

注) 当該農薬の登録又は申請された適用の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験（いわゆる最大使用条件下の作物残留試験）を複数の圃場で実施し、それぞれの試験から得られた残留濃度の最大値を示した。

食品名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績等 ppm
				国際 基準 ppm	国/地域 基準値 ppm	
米(玄米をいう。)	0.01	0.05	○			<0.01(#)(n=6)

太枠:本基準(暫定基準以外の基準)を見直した基準値

○:既に、国内において登録等がされているもの

(#):適用の範囲内で試験が行われていない作物残留試験成績

ベンゾビシクロンの推定摂取量 (単位：μg／人／日)

食品名	基準値案 (ppm)	暴露評価に 用いた数値 (ppm)	国民全体 (1歳以上) EDI	幼小児 (1～6歳) EDI	妊婦 EDI	高齢者 (65歳以上) EDI
米 (玄米をいう。)	0.01	0.01	1.6	0.9	1.1	1.8
計			1.6	0.9	1.1	1.8
ADI比 (%)			0.1	0.2	0.1	0.1

EDI：推定一日摂取量 (Estimated Daily Intake)

EDI試算法：作物残留試験成績の中央値 (STMR) 等×各食品の平均摂取量

(参考)

これまでの経緯

平成13年	4月26日	初回農薬登録
平成17年11月29日		残留基準告示
平成19年	3月5日	厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成20年	3月4日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
平成20年	3月13日	食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
平成21年	6月4日	残留基準告示
令和6年	7月24日	農林水産大臣から食品安全委員会委員長あてに農薬の再評価に係る食品健康影響評価について要請
令和7年	4月4日	農林水産省から消費者庁へ農薬の再評価に係る連絡
令和7年	4月16日	内閣総理大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
令和8年	1月22日	食品安全委員会委員長から内閣総理大臣及び農林水産大臣あてに食品健康影響評価について通知
令和8年	8月21日	農林水産省から消費者庁へ適用拡大申請に係る連絡及び基準値設定依頼（適用拡大：水稻）
令和8年	9月3日	食品衛生基準審議会へ諮問
令和8年10月30日		食品衛生基準審議会農薬・動物用医薬品部会

● 食品衛生基準審議会農薬・動物用医薬品部会

[委員]

大山	和俊	一般財団法人残留農薬研究所業務執行理事・化学部長
○折戸	謙介	学校法人麻布獣医学園理事（兼）麻布大学獣医学部教授
加藤	くみ子	国立医薬品食品衛生研究所薬品部長
近藤	麻子	日本生活協同組合連合会執行役員組織推進本部本部長
須恵	雅之	東京農業大学応用生物科学部教授
瀧本	秀美	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所理事
田口	貴章	国立医薬品食品衛生研究所食品部第一室長
◎堤	智昭	国立医薬品食品衛生研究所食品部長
中島	美紀	金沢大学ナノ生命科学研究所（薬学系兼任）教授
野田	隆志	一般社団法人日本植物防疫協会技術顧問

(◎：部会長、○：部会長代理)

答申（案）

ベンゾビシクロンについては、以下のとおり食品中の農薬の残留基準を設定することが適当である。

ベンゾビシクロン

今回残留基準を設定する「ベンゾビシクロン」の規制対象は、ベンゾビシクロンとする。

食品名	残留基準値 ppm
米（玄米をいう。）	0.01